

こころ の 健康

統合失調症について (その2・治療)

千葉県医師会 ねもととよみ 根本 豊實 医師

統合失調症の治療には、「薬物療法」・「精神療法」・「社会復帰療法(リハビリ)」の3つがあります。これらは独立してあるというより、それぞれが相互に関連しており、切り離して考えることはできません。これらの治療の中で、「精神療法」は、治療者との信頼関係を形成し維持するという役割が主で、素朴に患者を支え、悩みを傾聴し、具体的な生活指導をすることが大切である場合が普通です。これは決して容易なことではありませんが、相手の話をそのまま受け止める根気強い主治医の関わりが、治療の順調な進展には欠かせないものです。

また、「社会復帰療法(リハビリ)」については、生活能力の低下予防を目的としています。患者の背景としては、生活能力が徐々に低下し、そのことで孤立しがちとなってしまう、ますます生活能力が低下する、という悪循環的な疾患の経過特徴があります。それに対して、患者個々のレベルにあったメニューを提供してゆくわけです。具体的なメニュー内容としては、①生活能力の再建によって再発を防ぐ「生活技能訓練」 ②孤立を予防し周囲と交流する経験を通して生活能力を高めるための「デイケア」 ③外出が困難な患者の孤立と生活の崩れを予防する「訪問看護」 ④患者の再入院を予防する住まいとしての「グループホーム」などがあります。これらによって、どうしても長期化しやすかったこれまでの入院を短くしよう、ということもリハビリの目的です。

最後に「薬物療法」ですが、これは治療の中心となるもので、状態の改善、再発の予防に効果が実証されています。継続的な服薬は治療に欠かせません。治療薬自体にも進歩がみられ、従来の薬より副作用が少なく、効果の高い第二世代抗精神病薬が何種類も使用可能になっています。また最近では、この薬の持続性に効果を発揮する注射剤も使用できるようになり、私としては、この注射剤が広く使われるようになることを期待しています。

統合失調症の治療は、以上の3つの治療法を患者それぞれの特徴・状態・経過にあわせて適切に組み合わせて行うため、個別性が高いと言えます。

次回は、家族の対応について述べたいと思います。

